

JOYAMA NEWS

vol. **46**

2019 Autumn

Joyama 通信
福岡教育大学広報誌

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

特集

創立70周年を迎えて

福岡学芸大学福岡分校

国立大学法人福岡教育大学



国立大学法人

福岡教育大学

創立 **70** 周年

福岡教育大学は2019年に
創立70周年を迎えます

創立70周年の歩み、 そしてこれから。

今年、創立70周年を迎えた福岡教育大学。昭和24年(1949)国立学校設置法のもと、旧師範学校の流れを汲む4つの分校(福岡分校・久留米分校・小倉分校・田川分校)と久留米分校分教場をもって創立された「福岡学芸大学」がその始まりです。以来70年間、福教大は時代の変遷とともに進化を続けながら、九州唯一の国立教員養成系単科大学として学校現場に多くの教員を輩出してきました。今回は創立70周年特別企画として、ご自身も福教大に学び、約40年の長きにわたってキャンパスを見つめ続ける櫻井孝俊 学長にインタビュー。福教大70年間の歩みと現在の取り組み、そして将来ビジョンについてお話を伺いました。

大学創立時の高いハードル 優れた教員輩出に不可欠な進化と 意識する2つの社会的背景

——櫻井学長は福教大をご卒業後、昭和57年(1982)年に助手として大学へ戻られて以来、今日までその変遷を見守っておられます。70年間という歴史をどのように感じておられますか。

櫻井学長 70年は長い歴史です。旧師範学校の流れを汲む4分校と1分教場から創設された福岡学芸大学がその始まりですが、そもそもこの大学への転換が高いハードルでした。厳しい審査が行われ、全ての先生が大学へ移ることができたわけではなく大変なご苦労があったようです。大学発足後も昭和41年(1966)に現在地へ統合・移転するまでは、教員養成の単科大学ながら、校舎が福岡、久留米、小倉、田川と遠方に分かれたまま。今ほど交通網がない時代ですし通学・通勤も容易ではなかったでしょう。

「大学発足」「統合・移転」と言葉にすればひと言ですが、渦中は簡単ではありません。本学の70周年は、多くの卒業生、先生方、職員の皆さん、地域の皆さま、本学に関わってくださった全ての方々のご尽力のうえに成されたものであると改めて感謝の思いです。

——不変のための進化、時代に合わせて大学が進化を求められる場面は近年においても数々あったのではないのでしょうか。

櫻井学長 平成16年(2004)国立大学の法人化も大きな転機でしたし、その後、平成21年(2009)の教職大学院の設立、平成25年(2013)ミッションの再定義を踏まえ、平成28年(2016)には学部の改組と共に、カリキュラム改革、入試改革を実施しました。

こうした改革を行うにあたって、私は大きく2つの社会的背景を重視すべきだと考えています。1つは、学問の進展です。学問が進展すれば、子供たちにそれを授ける教員を養成する立場として、私たちも進化しなくてはなりません。もう1つは、国の施策です。国がどのような国民を育てていきたいか。例えば政府は今、未来社会のコンセプトにSociety(ソサエティー)5.0を掲げていますが、そのような国が描く未来像を支えることも、教育大学として、また国立大学としての使命であると考えます。



46

CONTENTS

vol.

02 特集

創立70周年の歩み、そしてこれから。

10 教員紹介

&学生から見た先生の魅力について

11 福教大NEWS

16 サークル紹介

少林寺拳法部

山の療育キャンプ

17 第23回 福教大卒OB&OG紹介

福岡教育大学附属小倉小学校教諭

藤野 剛さん

18 TOPICS

第19回特別支援教育公開セミナー

「多様化が進む中でできること～持続可能な社会に向けて・当事者の視点から～」を開催しました

福岡教育大学基金のご案内

19 キャンパスからの便り



2020年度は日本教育の転換点 新・学習指導要領がいよいよ始動

——まさに国の施策として、来年2020年度から小学校の新しい学習指導要領が全面実施となります。福教大の教育にも深く関わってくるところではないでしょうか。

櫻井学長 来春、まず小学校の学習指導要領が新しくなり、続いて、中学校、高校と順次変わります。これから10年、20年経ったとき、「2020年度を境に日本の教育は様変わりした」といわれる大きな転換点になるのではないかと思います。

小学校の新しい学習指導要領において、文部科学省が重視しているのは「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点です。教育現場には「自ら学ぶ意欲をもって先生や友だちと一緒に学んでいく学習形態」が要求されており、教員がそれをけん引していくためには、まず教員自身が自ら意欲的に学び続ける存在でなければ難しいでしょう。

こうした学習指導要領の改訂も見据えて実施したのが、平成28年(2016)のカリキュラム改革です。初等教育教員養成課程では、必須の128単位全てを小学校で求められる能力の養成に特化しました。これまでなかった「教育のためのデータ解析」「カリキュラム・マネジメント」「教育の最新事情」「地域に開かれた学校づくり」といった新しい授業も始動しています。改革の中心に据えたのは、これからの教員に求められる知識・技能・実践力の修得です。今後、教員に求められる力はこれまで以上に高度化していくことが予測されます。そうした現場へ飛び込んでいく学生たちに、実践で役立つ力をしっかり身につけてほしい。それが同改革の最も意図するところです。

このカリキュラム改革は本学にとって大きな変革でしたから様々な意見を頂戴し、中には反対の声もありました。しかし、学生たちに可能な限り豊かな学びを提供したいという思いは皆同じです。世の中はどんどん進展していきますから、カリキュラムの見直しは先生方と共に絶えず続けていきたいと考えています。

先生や先輩方から受け継がれる 「福教大ブランド」の誇り

——先ほど「学び続ける教員」というお話がありました。旺盛な知的好奇心を継続する力は、どのように育てていけると考えますか。

櫻井学長 教員養成大学という本学の環境もひとつの要素になるように思います。高校までの学力は、学習指導要領に沿った内容をどこまで理解できているかで判断されます。一方、大学の学びはもっと能動的で、そもそもの課題を自分で見つけなければなりませんし、学問の範囲も非常に広い。与えられたこと以外の知識や知恵を使って課題を解決しなければなりません。一人で本を開くことも大切ですが、同じくらい先生方や友人、あるいはキャンパス外での出会いや経験にもヒントがある。特に今はチームでの学び、周囲の人と力を寄せる、情報や知識を共有し共同する力が求められる時代です。そうした中であって本学には「教員になる」という同じ目標のもとで学生同士が切磋琢磨できる環境があります。

先生と学生の関係性も然り。本学は先生と学生の距離が非常に近く、先生方は指導する学生たちの顔や名前をよく覚えていらっしゃると思います。総合大学ではあまり考えられないことではないでしょうか。卒業後、学生たちは教員として多くの子供に向き合う立場になります。その手本として、大学で先生方が学生にきちんと向き合ってくださっていることがとても有難い。そうした指導を経験することで、学生たちも子供への温かい指導を目指すはずですから。

また、こうした先生方のご指導のおかげで、卒業生との絆が大変強いのも本学の長です。現役教員である先輩たちの指導は後輩学生にとって現場の声を聞く貴重な時間になっているでしょうし、そして巣立った彼らが教員となり、また後輩の指導に協力してくれる。こうした先輩・後輩の関係性は本学の誇らしい伝統といえます。

——70年の歴史の中で築き上げられてきた「福教大ブランド」のひとつですね。

櫻井学長 卒業生の多くが教員になりますから、特に福岡県内ともなれば公立の小・中学校のほとんどに本学の卒業生がいます。ただ数が多いだけではなく、「福教大出身の先生方は学校内でも頼れる存在」「教員たちの中で中核的な役割を果たしてくれている」と教育委員会の方々などからお褒めの言葉をいただくことも非常に多いです。

本学の卒業生たちは教育現場に出てからの成長、いわゆる伸びしろが大きいんです。孤軍奮闘ではなく、周りを巻き込む力を持っているからこそ、認めていただけるのだと思います。それはもちろん彼らの努力の成果ですが、大学4年間の延長線上に築かれた力でもあると自負するところです。卒業生の活躍は本当に誇らしく思います。

昭和40年代のキャンパスライフ 昔も今も変わらない福教大の校風

——櫻井学長が学生として通っておられた頃の福教大はどんな雰囲気だったのでしょうか？

櫻井学長 私が本学に入学したのは昭和46年(1971)です。当時は最寄り駅が赤間駅でしたから、駅からバスで赤間営業所まで来て、そこから徒歩で通学していました。西門から続く「定年坂」にクスノキが並んでいるでしょう？ 私が学生の頃はまだ樹高が4～5m程度でスツと細かった。それが大樹となって今は坂道に心地よい木陰をつくっている、そんな光景に月日の流れを感じますね。

当時は教員採用試験、特に小学校の採用率が非常に高く、同級生の

多くが教員の道に進んでいました。採用枠そのものが多かったこともあり、試験勉強も今よりはのんびりやっていたように思います。ただ、教員になりたいという情熱は昔の学生たちも同じ。共通の目標のもと、友人たちと切磋琢磨しながら送る賑やかな学生生活は、昔も今も変わらない本学の校風のように感じます。

目指すは教員就職率 90%! 九州の教員養成拠点大学としての使命を果たし 九州の教育を力強くリードしていく

——福教大の今後についてお聞かせください。まずは教員就職率について。

櫻井学長 先述の通り、昭和50年頃の教員就職率は大変高く、卒業生のかかり多くが教員の道へ進んでいました。その後昭和から平成にかけて低迷し、最も低迷したのは平成10年から12年で、採用の枠数そのものが激減したのが要因ですが、一時は教員就職率(進学者等除く)が卒業生全体の約30%以下まで落ち込むほど厳しい状況も経験しました。

そして今、本学は教員就職率90%達成を目標に掲げています。入試改革、カリキュラム改革を経て、一昨年度は76%、昨年度も75%と一定の成果を上げています。入試改革によってほぼ全学生が教員志望となり、今年度は平成28年度入学の初等教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程で卒業が見込まれる学生では、ともに90%以上が採用試験を受験しています。学生たちの努力、先生方のご尽力の成果がこうした数字にも表れ始めており、90%という高い目標設定も決して絵に描いた餅ではないと考えています。

——福教大は九州唯一の国立教員養成系単科大学であり、九州の教育をリードする拠点大学としての役割も期待されています。その使命をどのように果たしていくお考えでしょうか。

櫻井学長 「チームの学び」の重要性は学生のみならず、大学や教育機関においても連携は重要です。そして、拠点大学としての本学の役割もそこにあると考えます。

現代社会はこれまでとは比較にならないスピードで変わり続けています。先述のSociety5.0が代表的な例であり、AIやIoT、ビッグデータの処理といった新しい知識や技能が求められ、教員養成の場においても対応が必要となっていますが、こうした専門分野に精通した先生を確保できるかといえは難しい。教育大学である本学がAIの専門家を抱えるのは現実的にハードルが高いからです。デジタル技術に限らず、芸術

分野などでも同様のことがいえますし、多くの大学が同じ課題を抱えています。

Society5.0に代表される現代社会の大きな変化への対応は、教員の養成段階だけでなく、学校現場にも求められています。教員研修もその一つです。

こうした課題を解決するため、今年3月に発足したのが「九州教員研修支援ネットワーク」です。九州・沖縄の19の国公立大学と、12の九州各県、政令指定都市、中核市の教育委員会が参画する組織で、それぞれの強みや特色を持ち寄り情報共有し、九州全体の教員研修の底上げや質的向上を図ろうとするものです。具体的には、研修プログラムの共同開発や、大学教員の研究成果等を教員研修に生かすための研修講師データベースの整備などです。

同ネットワークの発足は、本学が文部科学省から委託された「九州地区教員育成指標協議会(平成28年度)」や「九州地区教員養成・研修研究協議会(平成29~30年度)」が原点といえます。その実績を評価いただき、各大学への協力要請においても「福教大が声を上げてくれると動きやすい」というお声も多く、教員養成拠点大学としての存在価値を示し、大きな使命の一つ果たせたように思います。

——最後に皆さまへメッセージをお願いします。

櫻井学長 本学の目標は、豊かな知を創造し、教育実践力にあふれた教員を学部、及び大学院において養成することにあります。教育は国の根幹を成すものであり、そこに携わる有為な教員を育てていくために、より良い学びの場を提供し続けること——それが本学70年の歩みそのものであり、今後も変わらない使命です。また、九州の他大学、教育委員会、自治体など関連機関との連携を図りながら九州全体の教育レベルを引き上げていくことも国立の教員養成拠点大学である本学にしか果たせない役割であると考えます。創立70周年を迎えられた喜び、そして感謝と共に、教育・研究活動、社会貢献において今後も精一杯、尽力して参ります。本学のこれからにどうぞご期待ください。



福岡教育大学創立70周年を祝して

福岡教育大学後援会 会長 柴田 徹



この度は、福岡教育大学が創立70周年を迎えられますことを心よりお祝いを申し上げます。

昭和24年の福岡学芸大学の発足から70年、今日まで福岡教育大学が発展してきましたのも、創立当初より献身的に教育に対して情熱を燃やし、学生の指導に当たってこられた教職員の方々の並々ならぬ努力の賜物であると深く敬意を表します。

今後とも、福岡教育大学が益々発展し、素晴らしい教員が育ちゆく場であり続けることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

福岡教育大学同窓会 城山会 会長 太田 勝視



本学が昭和24年に新制大学 福岡学芸大学として発足以来、本年で創立70周年を迎えられましたこと誠にありがとうございます。同窓会会員異動心よりお慶び申し上げます。現在、4万数千名の卒業生が、福岡教育大学で受けた教育を誇りとして福岡県内はもとより西日本各県の教育界・行政機関・各種事業所などで活躍しています。

今後も本学が、教員養成における広域の拠点的役割を担って更に発展していけますことを祈念しています。私ども同窓会としても、母校・学生への支援協力を一層進めてまいります所存です。



統合・移転当時の福岡教育大学赤間キャンパスの航空写真(1966年)

写真で見る

創立70周年の歩み、そしてこれから。

福岡教育大学の歴史及び 赤間キャンパスの変遷

本学は、福岡学芸大学として1949年5月31日に誕生、1966年4月1日に福岡教育大学へ改称されるとともに、同年11月1日、宗像は赤間の地に統合・移転が完了しました。

本学の歴史や赤間キャンパスの変遷について、統合・移転当時の写真と現在の写真を比較しながらご紹介します。

建物の新設や改修等でキャンパス内の雰囲気は変わりましたが、教員を志す本学学生たちの情熱は創立当時から変わることがありません。



現在の福岡教育大学赤間キャンパスの航空写真

統合・移転当時の様子



定年坂

移転直後の構内は建設中の施設も多く、学生たちは未舗装の道を通り授業に向かっていました。

現在の様子



中庭・共通講義棟

共通講義棟前の中庭は、当時も現在も学生たちの憩い場となっています。



学生会館・図書館

2014年にリニューアルされ新しく快適な空間となった図書館(写真右)には、日々多くの学生が集い、仲間とともに学修を進めています。

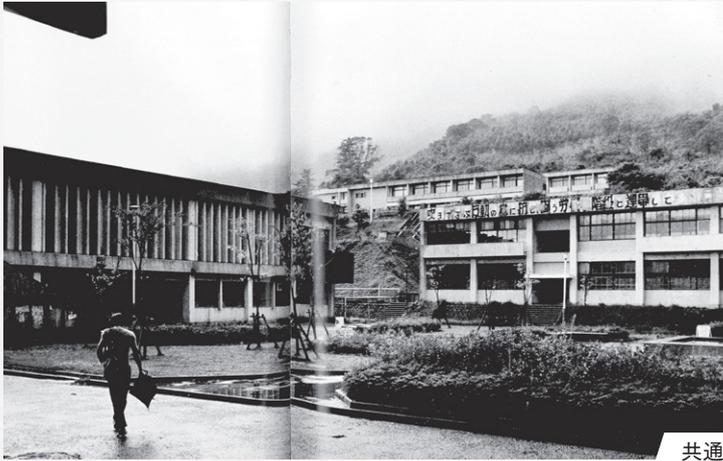


事務局棟

当時苗木だったヤシの木は、今では建物を遥かに見下ろすほど成長しました。



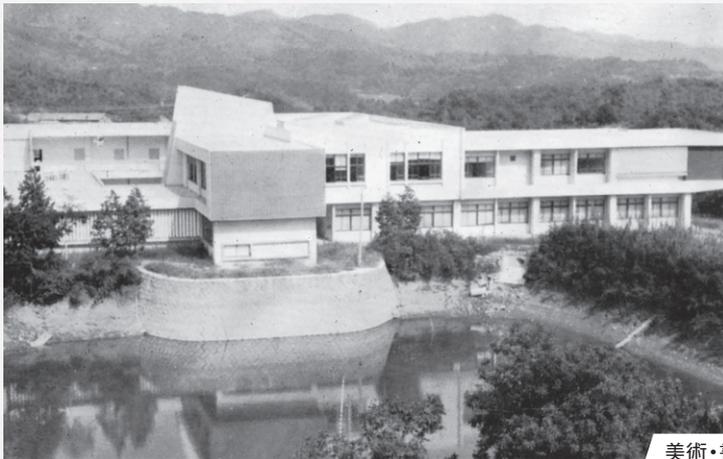
統合・移転当時の様子



共通教義棟

全国に広がる「大学紛争」の波は本学にも押し寄せ、共通講義棟の外壁に大書されたスローガンを読みとることができます。(写真左)

現在の様子



美術・書道教棟

宇土池のほとりに佇む美術・書道教棟には、多くの学生の作品が所狭しと展示されています。



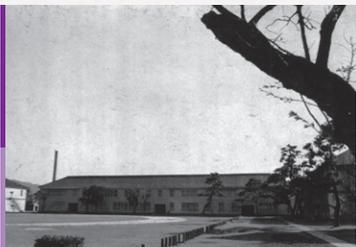
福岡学芸大学 本校及び各分校



福岡学芸大学 本校



福岡学芸大学 福岡分校



福岡学芸大学 小倉分校



福岡学芸大学 久留米分校

福岡教育大学 附属学校・園



附属福岡小学校



附属福岡中学校



附属小倉小学校



附属小倉中学校



福岡学芸大学 田川分校



附属幼稚園



附属久留米小学校



附属久留米中学校

近年の施設



アカデミックホール(2013年新設)



ものづくり創造教育センター(2013年新設)



教職大学院棟(2009年新設)

福岡学芸大学創立当時の様子



開学記念祭



授業風景



学生食堂



開学記念祭



学大祭



教育実習



教育実習

教員紹介 & 学生から見た先生の魅力について

特別支援教育に配慮した教育実践の創造を

特別支援教育ユニット

教授 見上 昌睦

出身地: 山口県
 最終学歴: 金沢大学大学院
 教育学研究科修士課程
 取得学位: 博士(教育学)
 (東京学芸大学、2012年)
 本学着任: 1999年



専門の研究テーマについて

特別支援教育における言語障害児教育です。その中の話し言葉の流暢性の障害である「吃音」に関する教育的支援を専門にしています。吃音をはじめ言語障害のある子供の多くは通常の学級に在籍していますが、学級担任による配慮・支援や通級による指導等における専門的な指導のあり方について検討しています。

大学教員に進むことになったきっかけについて

私自身に吃音があり、「吃音のことをもっと知りたい」と思ったためです。特別支援学校教諭から私立短期大学の児童福祉学専攻(保育士養成課程)の助手(助教)に転身しました。現在の附属幼稚園長職に生かしている有用な経験や出会い(「はらぺこあおむし」翻訳者の故森久保仙太郎先生とも交流)も多くあ

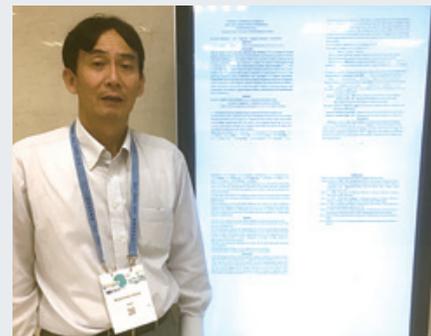
りました。本学着任後、2003年度後半に米国イリノイ大学に滞任(研修)させていただき、関係する分野の世界的な研究者と交流したり、教示をいただいたりしたことは大きな財産になっています。

研究成果の教育への還元について

吃音を中心に言語障害のある子供の教育相談については、本学特別支援教育センターで担当し、学生共々学ばせていただいています。研究成果については、大学の授業や言語障害通級指導教室の研究会等で紹介するようにしています。初年次の授業科目「特別支援教育と介護入門」のテキスト(共著)を本年7月に刊行しました。

こだわりの物・考え・モットーについて

子供の指導・支援に際して、「遊び」の要素



国際音声言語医学会(台湾・台北市)におけるePosterセッションの様子

を取り入れることを考慮しています。たとえば、カメのぬいぐるみにゆっくりとした話し方を諭えるなど「言葉遊び」の感覚で話し言葉の流暢性を促すように工夫したりしています。

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

附属幼稚園では、チームワークの大切さや、園児と家族、職員が“自己発揮できる”、“居心地のよい”環境づくりなどについても学ばせていただいています。学生の皆さんには、専門性を身に付けながら、子供達が自分らしさを発揮しやすいアットホームな学級を育ていける教師になってほしいと願っています。また、特別支援教育にも配慮した教育実践を創っていただけることを願っています。



附属幼稚園の誕生会で記念色紙をプレゼントしている様子



誕生月の園児・保護者との記念撮影

学生から見た先生の魅力について

城戸 香音さん、中村 小夜さん、柚木崎 宰さん、上野山 陽哉さん、河野 優子さん
 (特別支援教育教員養成課程 言語障害児教育専攻4年)

西山 華織さん (特別支援教育特別専攻科)

見上先生は、附属幼稚園の園長先生や大学教員として様々な職務があり多忙にも関わらず、私達ルーム学生のために時間を割いてくれることを厭いません。実習や教授の前には必ず丁寧な激励のメールを送ってくださり、副免実習の際は実習先まで足を運んで相談に乗ってくださったり、言語聴覚士の資格を取るため進学を考えていた学生に対しても親身になって様々なアドバイスをされたりしていました。大学内でたまたますれ違ふことがあっても、挨拶だけにとどまらず、近況や勉強の進捗などを気にかけてくださり、とても親しみを感じます。学生思いの素晴らしい先生です。



見上ルーム所属の学生たち

令和元年度福岡教育大学未来奨学金授与式の実施

令和元年7月30日(火)に令和元年度福岡教育大学未来奨学金授与式を実施しました。

「福岡教育大学未来奨学金」は、学生の学業成績の向上及び海外留学を奨励することを目的として、平成24年度に創設され、後援会及び同窓会の寄附により成り立っている本学独自の給付型奨学金です。「福岡教育大学未来奨学金」には、「学業成績優秀者奨学金」と「国際交流協定校派遣支援奨学金」の2つがあります。

今年度は、20名の学生が「学業成績優秀者奨学金」を授与され、3名の学生が「国際交流協定校派遣支援奨学金」を授与されました。櫻井学長から「奨学生の皆さんには、奨学金を有意義に活用していただき、将来教育現場で

活躍する教員となっていただくことを期待しています。」、柴田後援会会長から「福岡教育大学の学生として、教職を目指し、明日の子どもたちを育てる素晴らしい教師として活躍することを期待しています。」、太田同窓会会長から「本学で学んだことを卒業後の社会生活で活かしてください。同窓会は学生の間に卒業後も皆さんを支援していきます。」と激励の言葉が贈られました。

これを受け、学業成績優秀者奨学生代表の中等教育教員養成課程家庭専攻3年 青木 優華さんと国際交流協定校派遣支援奨学生代表の初等教育教員養成課程2年 山室 美

月さんから、感謝の言葉とともに「いただいた奨学金は、教員になるという夢の実現のため、有意義に活用したいと思います。」と決意が述べられました。



授与された学生と櫻井学長(前列中央)、柴田後援会会長(前列中央左)及び太田同窓会会長(前列中央右)

令和元年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会の開催

今年度の初会合となる「令和元年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会」を7月26日(金)、福岡教育大学で開催しました。九州教員研修支援ネットワーク(以下、「ネットワーク」という)は、平成31年3月に発足し、九州・沖縄の教員養成機能を有する大学と教育委員会等とが連携して、教員研修の効果的・効率的な実施に向けて情報の提供・共有や研修プログラム等を開発する組織で、福岡教育大学の教員研修支援センターが事務局を担当しています。

文部科学省、九州・沖縄の教員養成機能を有する大学の研究者等、九州各県・政令指定都市・中核市の教育委員会関係者、本学関係者およそ60名が一堂に会しました。

今回の協議会では、櫻井孝俊学長の挨拶の後、教員研修支援のためのアンケート調査結果についての報告を行い、「動画等のコンテンツ開発への期待」、「教員育成指標の取組状況」、「初任者研修の弾力化」、「研修履歴の管理」等に関する参画機関の状況や考え方について、情報の提供及び共有を行いました。

その後、熊本大学の宮脇真一准教授より、「教職大学院、教育センター、附属小学校が連携した現職教員の研修に資するデジタルコンテンツの開発」、また、福岡県教育センターの伊藤啓二教育経営部長より、「研修の効率化に向けた動画コンテンツの活用」についてそれぞれ実践発表がありました。

宮脇准教授からは、教職大学院、熊本市教育委員会及び附属学校が連携して動画コンテンツを開発し、教員研修の効果的・効率的な実施に資する取組が報告されました。伊藤部長からは、受講者とともに、研修担当指導主事の働き方改革の趣旨を福岡県教育センターでの研修に活かす観点から、新任主任主事研修会に動画コンテンツを取り入れた取組の報告がなされました。

次に、今年度のネットワークの取組の柱となる「動画等コンテンツの開発」、「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」等について協議を行いました。動画コンテンツについては、教育委員会側から、教員研修の効率化等への期待が述べられる一方、大学側からは、コンテンツによる教員研修を進めていく上での課題等が示されました。これらの意見を踏まえ、

動画コンテンツをモデル的に開発していくことが了承されました。

最後に、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長の高田行紀氏による記念講演(演題:「九州教員研修支援ネットワークへの期待」)が行われました。高田室長からは、全国の大学と教育委員会の連携・協働の事例やSociety5.0時代(超スマート社会)を見据えた取組や、フラッグシップ大学等中央教育審議会の審議状況についての紹介があり、ネットワークへの期待が述べられました。今後ネットワークでは、教育課題を共有し、参画機関の有する様々な専門的リソースを活かしながら、動画等コンテンツの開発等、具体的な取組に努めていきたいと考えています。



九州全域からおおよそ60名が参加した協議会



文部科学省高田教員養成企画室長による記念講演

第14回宗像地区教育関係者合同研修会の開催

令和元年8月1日(木)に、本学アカデミックホールにて「第14回宗像地区教育関係者合同研修会」を開催しました。

「地域社会の要請に応える、教員養成・教員育成のあり方について」を全体テーマとし、宗像市・福津市教育委員会および学校関係者、本学関係者を合わせて約170名の参加がありました。

開会行事では、櫻井学長から「教育現場での働き方改革はどのように進めていくのか、また、若手教員をどのように育成していくべきか。現職の先生方の仕事内容、児童生徒への接し方を間近に観察することで、学生自身の将来の教師像を具体的に考えていきたい。」との挨拶がありました。

研修会では、始めに「宗像地区の教員採用状況と若手教員の現状」と題して、宗像市教育

委員会 主幹指導主事 安河内 友美先生より、宗像地区における教育現場の現状と課題について問題提起がありました。報告を通して、働き方改革や若手教員の育成の必要性を参加者が実感することができました。

そして、「いつも笑顔で機嫌よく」と題して、横浜市立日枝小学校 校長 住田 昌治先生よりご講演いただきました。講演では、教員が笑顔で働くことができる「カラフル」な学校を作っていくために、大学や小中学校の管理職がどのようにあるべきかについてご

講話いただきました。また、ウェルビーイングを活用しながら教員のライフスタイルを考え直し、周りの参加者と意見を交換する中で、働き方改革を進めていくために、また、若手教員を育成していくためにどのような取り組みを進めていくべきかを考える機会となりました。



住田 昌治先生による講演



研修会の様子

「【NITSカフェin福岡教育大学】災害後のケアについて考えよう～私たちにできること～」の開催

宗像市総合防災訓練の日である9月14日(土)に、本学教職大学院、宗像市立城山中学校と宗像市教育委員会の合同でセミナー【NITSカフェin福岡教育大学】を本学アカデミックホールで開催しました。

本セミナーでは、最初に元小学校校長で熊本県益城町教育委員会の防災教育担当者である柴田敏博氏から、小学校校長時代に経験された熊本地震の際の避難所運営や学校再開までの取り組みについて、講演を行っていただきました。その後、城山中学校の第3学年の生徒と本学教職大学院生・学部生が、地域の避難所である同中学校で、どのようなサポートができるかについてグループワークを行い、た

くさんの意見が出されました。

また、宗像市での避難訓練の後、宗像市教育委員会 高宮史郎教育長も会場に駆けつけ、グループワークの様子を観察されていました。

最後に、城山中学校の生徒代表から柴田先生への謝辞があり、セミナーは盛会のうちに終了しました。

本セミナーは、教職大学院、教育委員会などの専門の教育関係者と、一般の現職教員、学校、地

域、民間企業等が、語り合う場をつくることを支援することを目的とした「NITSカフェ」事業の一環として、独立行政法人教職員支援機構(NITS)の支援を得て実施いたしました。



柴田敏博氏の講演



グループワークの様子

令和元年度大学教員活動評価に関する表彰式及び懇談会の実施

本学では、令和元年9月30日に、令和元年度大学教員活動評価の結果に基づいた学長表彰式を実施しました。

本学は「大学教員活動評価」として、教員が行う諸活動を、教育・研究・社会貢献・学内運営の4領域にわけて、毎年度、自己点検・評価を行っています。その総合評価が優秀であった教員から、学長が1名を選考し、表彰することにしており、令和元年度は、教育学部特別支援教育ユニットの見上昌睦教授が選ばれました。

見上教授は、特別支援教育、特に言語障害児教育の分野において、教育・研究、社会貢献等に尽力していることが評価されました。

表彰式では、見上教授に、学長から「これからのますますのご活躍を期待しています。」との言

葉とともに、表彰状と記念品が贈呈されました。

また、本学では、「大学教員活動評価」において教育・研究領域の評価が優秀であった若手教員10名以内に、研究活動の支援として、研究費を配分することにしています。

令和元年度は支援対象に、石橋直講師、兼安章子講師、川口俊明准教授、熊谷亮講師、菅沼敬介助教、樋口裕介准教授が選ばれました。

10月2日には、支援対象の若手教員と学長及び理事(企画・教育研究・附属学校・教育組織・カリキュラム担当)との懇談会を実施しました。

懇談会では、まず学長から、研究活動の奨励が行われた後、若手教員からは、現在の研究活動状況や今後の展望、支援制度への改善の希望などが出されました。

なお、支援を受けた若手教員は、令和2年度にその成果を発表する予定です。



表彰式の様子



懇談会の様子

オープンキャンパス2019の開催

入試広報の一環として、高校生・保護者等を対象としたオープンキャンパスを7月20日(土)に開催しました。

当日は約2,900人もの高校生や保護者の方が来学され、大学説明会のほか、各選修・専攻の紹介や体験授業、見学ツアー、在学生や教職員による個別相談など、様々なプログラムを学内各所で開催しました。

アカデミックホールにて開催した大学説明会(3回実施)では、櫻井学長による講話などを行いました。好評につき、事前予約の申し込みは各回定員に達し、当日に参加希望された方も会場内の状況に応じご案内しましたが、一部お断りせざるを得ない状況になりました。皆様にはご不便をおかけして申し訳ありませんでした。

学内各所で実施した体験授業等では、大学での学びや大学の施設を体験・見学いただきました。

また、個別相談コーナーでは、在学生及び教職員に対し熱心に質問をする高校生や保護者の方々の姿が多く見受けられました。

その他、図書館の開放、及びサークルのうち一部が練習公開や成果の披露を行いました。



キャンパス内の様子



体験授業(初等教育教員養成課程)



ポスター展示(初等教育教員養成課程)



学生による相談コーナー



体験授業(特別支援教育教員養成課程)



体験授業(中等・理科専攻)

アンケートにご協力いただいた方に、本学オリジナルグッズを進呈しました。これを機会に、本学により親しみを感じていただけたら幸いです。皆様からお寄せいただいた貴重なご意見を踏まえ、来年度以降も、「参加して良かった」と思ってもらえるようなオープンキャンパスとなるよう、スタッフ一同尽力いたします。



カンボジアで海外ボランティアを実施

今年度で4年目となった本研修(令和元年8月19日~8月30日)には、1年生5名、2年生7名の計12名の学生が参加しました。現地で20年以上の実績のある日本語教室でのボランティア活動、同じく20年以上現地支援している日本の団体の小学校での支援活動に参加、大学の英語クラスでの交流、地雷被害者インタビュー等を体験し、最後は世界遺産の街で世界中からの訪問者とも交流しました。

参加学生の声

- 日本と全く違う生活を目の当たりにして、幸せとはどういうことなのかを深く考えるようになった。ボランティアで行ったが、私の方が学ぶことが多く、パワーをもらった。(中略)またいつか、もっと成長した私で、カンボジアを訪れたい。(中等教育教員養成課程2年)
- 今回の研修全体を通して、私は前に比べるとかなり英語力をあげられたのではないと思う。その場で言いたいことを英語でサクッと思いつくことなど、英語が苦手な私には考えられなかったことだ。これからはこの伸びかけの英語力をもっと伸ばすために、福岡で行われている国際交流のボランティア活動に今まで以上に精力的に参加し、国内外問わず最高の仲間を増やしていきたいと考えている。(初等教育教員養成課程1年)
- (現地の)大学生はとても英語力が高く圧倒されました。何より驚いたことは、ネイティブのように話す子が英語の勉強を始めて3年と言ったことです。カンボジアの学生は手に職をつけるため一生懸命勉強していることを実感しました。私は勉強は何のため、誰のためにしているのかを改めて考えるきっかけになりました。(初等教育教員養成課程2年)



日本語教室



大学訪問



社会連携

科研費獲得推進支援プロジェクトについて

研究開発推進室長 飯田 慎司(副学長・教育学部長)

研究開発推進室では、科研費の獲得に向けたいろいろな支援を行っていますが、今回は、科研費獲得推進支援プロジェクトについてご紹介したいと思います。

平成30年度まで、科研費等の競争的資金を獲得することを念頭に置いて研究費を配分する制度として研究推進支援プロジェクトを実施してきましたが、今年度から、科研費に特化して、名称を科研費獲得推進支援プロジェクトとして実施しています。対象は、科研費最終年度の場合を除いて、当該年度に科研費を獲得していない本学教員です。支援期間は単年度であり、採択された場合は、論文投稿、学会発表を行い、プロジェクト終了1年後以内に科研費の申請を行うことが義務づけられています。

今年度の申請期間は、平成31年4月22日から令和元年5月10日まででした。その後、研究開発推進室内に設置する審査会における審査を経て、獲得者を学長が決定しました。平成31年度の支援総額は2,487,000円(獲得者は11名)でした。このプロジェクトの申請書は科研費の申請に準じた様式になっていますので、科研費申請に向けての練習になるとともに、本経費を用いて学術論文等の業績を積み上げていくことが期待できます。

今月号では、平成30年度の研究推進支援プロジェクトに採択された教員の中から、平成31年度の科研費を獲得された3名の先生方に、研究推進支援プロジェクトによって行われた研究の一端をご紹介いただくことにしました。

平成30年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト一覧

番号 (提出順)	所属講座等	申請代表者	プロジェクト名
1	教職教育院	菅沼 敬介	高等教育・教育課程の質の保証・向上を図る「総合的学習指導法」の内容に関する研究
2	教職実践講座	坂井 清隆	学習者の学びを促進させる教師の単元展開の実践的思考の研究
3	理科教育講座	長澤 五十六	第15族元素を配位原子に持つ六配位八面体型白金(II)錯体
4	教育心理学講座	中島 義実	教育委員会との協働による長期欠席の未然防止の徹底化
5	理科教育講座	宮崎 義信	窒素・酸素含有多座配位子とバナジウムの錯生成の熱力学
6	教職教育院	石橋 直	電気回路設計の基礎的能力に関する研究
7	音楽教育講座	山本 百合子	福岡における筑前琵琶の伝承と創造をめぐる基礎的調査
8	理科教育講座	小杉 健太郎	化学実験教材の高度化に向けた基礎研究
9	保健体育講座	清水 知恵	調和的身体に関する研究～呼吸および自然界の法則を基盤としたムーブメント・アプローチ開発の試み～

プロジェクト名

学習者の学びを促進させる教師の単元展開の実践的思考の研究

教員名 | 坂井 清隆(教育実践ユニット・講師)

研究の概要

(1)D-OODAサイクルモデルに関して、教育実践への援用方法や実践上の留意点について明示するとともに、単元展開を可視化するための「単元の様相—解釈」に関して、単元の構造的全体像を、【単元の流れ:計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化(=様相)し、単元が生成・発展していく関係性の分析・検討(解釈)の枠組みとして設定しました。

(2)共同研究を行っている学校の先生にD-OODAサイクルモデルを取り入れた実践を行っていただき、その実践を対象に「単元の様相—解釈」のための資料を作成しました。

(3)研究協力者の先生と共に授業実践に対して「単元の様相—解釈」を行い、その際のインタビューやリフレクションの記述の検討・考察を通して、単元展開の改善に向かう実践的な「D-OODAサイクル」の有り様を明らかにしました。

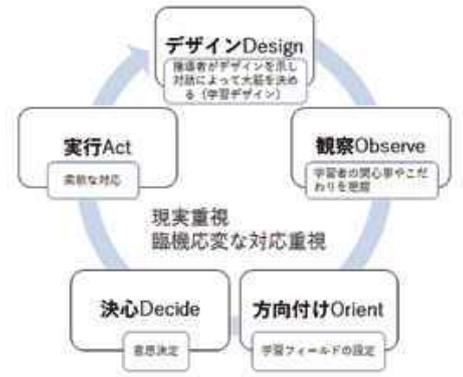


▶成果と課題

研究の成果として、まず、「単元の様相—解釈」によって、教師の単元を貫く学習問題の設定、授業で表出した子供の関心事や興味と単元展開での生かし方、単元展開の発展性のそれぞれを関連させながら、単元展開の方途を巡って思考していることが明らかになりました。

次に、単元展開における先生の意識は、具体的な展開のみならず、先生自身の単元観・授業観・子供観を捉え直していることがわかりました。また、先生自身が、自らの単元観・授業観や子供観に常にアクセスすることで、単元が生成・発展され、子供自身の主体性や探究意欲が喚起されていくことや、単元展開や授業の「事実」から、事前の計画(plan)にとらわれず、子供の観察(observe)から得られた知見が、実効性が伴った単元展開として生かされていくことも明らかになりました。

今後の課題は、本研究と自治体の教員育成指標を踏まえた研修システムの構築です。キャリアステージの「基礎期」において、単元展開を組み込んだ研修等の実施することで、単なる教育技術の向上に留まらず、「学び続ける教師」としての信念や教育観・子供観の深化・更新が促進されていくことが期待できると考えています。



プロジェクト名

電気回路設計の基礎的能力に関する研究

教員名 | 石橋 直 (技術教育ユニット・講師)

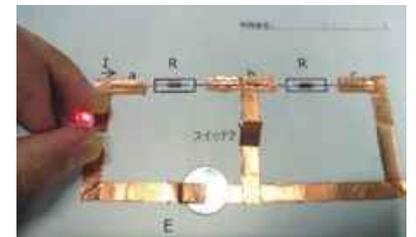
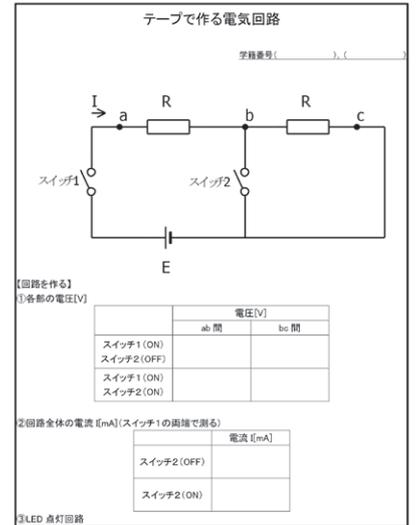
▶研究の概要

高等学校(工業科)や中学校(技術・家庭科技術分野)において、電気回路(電子回路を含む)設計学習の重要性が増しています。回路設計という行為は、人工物の創出をゴールに据えた、最適化を図る知的な活動であり、その能力には設計者のもつ電気回路概念が深く関連しています。しかし、これらの概念と設計能力の関連性等については明らかにされていません。そこで本プロジェクトでは、電気回路概念が電気回路設計能力に及ぼす影響の調査を通して関連性を見出すとともに、設計能力育成のための効果的な教材開発を目指しました。

▶成果と課題

電気回路概念と設計能力の関連性については、大学生と工業高校生に対する調査結果から、単純な配線・接続に関する概念において相関が認められました。一方、電圧や電力といった量的な性質を含むものや複合的な概念については相関が認められず、「回路の理解はできて設計になると困難」という傾向が示されました。また、設計以前に電圧や電力の定義の理解が曖昧であることが見られ、電気回路を科学的に理解することの難しさが示されました。そこで、電気回路基礎教育における、つくりながら学ぶ“ハンズオン教材”として、回路図のレイアウト通りに実物の回路を構築できる導電性テープを活用した教材を提案し、大学生を対象に試行授業を実施したところ、概念の再構成に一定の効果が見られました。この教材によって、プロトタイプ開発や基礎実験において、回路図から実体配線の移行過程で学習者のつまづきが多かった従来のブレッドボード等から、回路図と同一の部品配置・配線を施すことで実物が動作する、安価で容易に扱える教材への転換を可能にしました。

今後の課題は、電気回路概念の習得に効果的な指導法を検討することと、ハンズオン教材の利便性を高め学習コンテンツを拡充させることです。



導電性テープを活用した回路教材の例

プロジェクト名

化学実験教材の高度化に向けた基礎研究

教員名 | 小杉 健太郎 (理科教育ユニット・准教授)

▶研究の概要

近年我々は、科学・理科教育の教材として分光実験を行うための装置の構築と測定ソフトウェアの開発を行っています。本プロジェクトでは、この分光実験装置の機能拡張を行いました。また、このような装置・測定ソフトウェアを用いる実験教材の開発研究を今後発展させる上で基礎となるいくつかの小テーマについても取り組みました。

▶成果と課題

本プロジェクトにおいて、紫外可視光源を分光実験装置に追加しました。また、この光源に対応させるために、測定ソフトウェアにもいくつかの改良を加えました。このようにして機能を拡張した分光実験装置によって、従前の可視領域に加えて、紫外領域の吸収スペクトルも測定できるようになり、開発可能な実験教材の幅が広がりました。今後は学習内容に合わせた測定データの表示・記録が行えるように測定ソフトウェアの改良に取り組む予定です。

本プロジェクトでは、上記に加えて、次の内容にも取り組みました。

- ① 分光実験装置用測定ソフトウェア内部のサブルーチン化
- ② 化学平衡に関する教材用実験の物質系の再検討(先行研究を参考にした溶媒の変更)
- ③ arduino互換機を用いる測定実験装置の開発の基礎に関する情報収集

これらについても一定の結果・知見を得ることができました。一部の内容については、今年度も継続して研究を進めています。

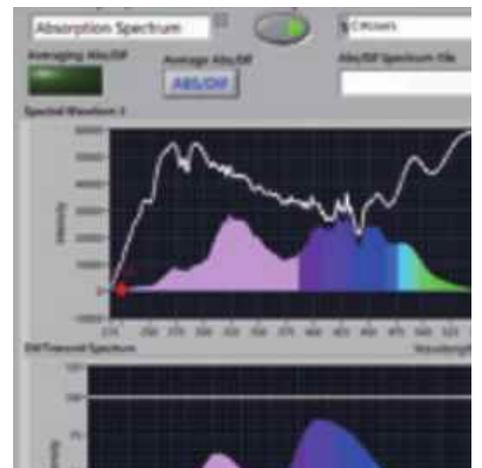


図. 測定ソフトウェアの画面の例

少林寺拳法部

初等教育教員養成課程3年

わく だ たか ひと
和久田 貴仁

私たち『少林寺拳法部』は、男子12人、女子14人の計26人で、監督・コーチ・先輩方のご指導のもと、月・水・土曜日の週3回活動しています。

「少林寺拳法」とは、自分の身を守る護身術が基本であり、老若男女問わず学ぶことができる武道です。実際に、部員の半分以上が大学から始めた未経験者であり、運動が苦手な人や身体の小さな女性でも、楽しく活動しています。大会等でも、初心者・経験者関係なく上位入賞を果たしています。

また、「少林寺拳法」は、身体を強くすることや技術を向上することのみ

を目的とせず、修練を通して強く優しく豊かな心を育てる“人づくり”も目的としています。私たち自身も、技の習得や大会の結果のみにとらわれることなく、人として強く優しく豊かな人間になれるよう、日々練習に励んでいます。

これからも周囲への感謝の気持ちを忘れることなく、それぞれの目標や夢へ向かって部員全員で頑張っていきたいと思います。今後とも応援よろしくお願いします。



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



山の療育キャンプ

特別支援教育教員養成課程 中等教育部2年

えとう ともみ
江藤 知美

『山の療育キャンプ』では、毎年7月に「筋萎縮症児キャンプ」、8月に「肢体不自由児キャンプ」を行っており、各キャンプ合わせて、69名の学生(1、2年生)が在籍しています。

4月から両キャンプの準備が始まり、週に一度、全体ミーティングやレクリエーションミーティングを行います。また、キャンプの計画を立てる時は、特別支援学校の先生方からご意見を頂きます。

「筋萎縮症児キャンプ」は、保護者の方が同伴し、1泊2日で行われます。今年は台風の影響でキャンプ自体は中止となってしまいましたが、レクリエーション企画などの準備段階で私たちは多くのことを学ぶことがで

きました。

「肢体不自由児キャンプ」は、小学3年生から高校3年生の子供を対象とした2泊3日のキャンプで、今年は27名の子供が参加してくれました。参加する子供の中には、誤嚥しやすい子やてんかんを起こす子も多くいるため、私たちは、命を預かるという責任感を持って3日間を過ごしました。

両キャンプ当日は、特別支援学校の先生方にお手伝いいただくため、私たち学生にとって、多くの学びを得る機会となっています。これからも子供のことを第一に考えたキャンプを企画し、多くの子供たちを笑顔にしたいと思います！





学級の子どもと実習生との記念撮影の様子

教員としての喜びと責任

教員にとっての喜びは、子どもたちの頑張る姿や成長を間近で見られることだと私は思います。子どもたちの頑張る姿は、とても眩しく輝いており、見ている私も嬉しい気持ちになります。最近では、中学、高校を卒業した教え子や就職した教え子、親になった教え子たちが、赴任先に訪ねてきてくれ、その成長した姿を見ることも、大きな励みとなっています。それと同時に、子どもの人生の一部に関わり、影響を与える責任の重さを改めて実感しています。

附属小学校の実習担当教員として

子どもの前で初めて授業をした時の緊張感や実習最終日に名残惜しくて涙したことなど、実習生が来る度に当時の様子を思い出し、温かい気持ちになります。実習担当として年間150名近い学生に関わってきましたが、初日に不安な表情をしていた実習生が、実習を通して成長し、凛々しい顔で最終日を終える姿を見ると、とても嬉しい気持ちになります。未来の子どもたちを育てる教師を養成することは、とても責任の重い仕事ですが、たいへんやりがいを感じています。



音楽科の卒業演奏会の様子



授業風景(発声指導の様子)

教師を志す学生の皆さんへ

学生である間に多くの人と関わり、多くの考えに触れてください。教師は、子どもだけを相手にする職業ではありません。保護者・地域の方・同僚などの大人と関わることの多い職業です。一つの物差しで物事を考えるのではなく、多面・多角的に物事を考えなければなりません。教師という職業は大変です。しかし、他の職業では体験できない、喜びや感動を味わうことができる職業でもあります。いつの日か、一緒に働けることを楽しみにしています。

福岡教育大学附属小倉小学校
ふじの ごう
教諭 藤野 剛さん

初等教育教員養成課程
実技コース(音楽領域)
平成17年3月卒業



第19回特別支援教育公開セミナー 「多様化が進む中でできること～持続可能な社会に向けて・当事者の視点から～」を開催しました

福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育センターでは、令和元年10月19日(土)、岐阜市立島小学校主幹教諭の神山忠先生をお迎えし、「多様化が進む中でできること～持続可能な社会に向けて・当事者の視点から～」と題して、第19回特別支援教育公開セミナーを開催しました。

神山先生はまず、文字を読むことに大変苦労されて来られた学校時代を振り返りながら、自分なりの読むための工夫についてお話しされました。文字学習中心の学習に拍車がかかった中学校時代は、教室に入るときに足がすくむような思いになったこともあったそうです。高校卒業後は自衛隊に入隊されました。自衛隊での口頭による教育と実物操作をしながら身体で習得する訓練は、先生の学びのスタイルにピッタリでした。先生は、自衛隊で様々な活動をされつつ、夜間の短大で教員免許を取得されました。その後、ひたすら勉強され教員採用試験に合格、そして現在に至っておられます。

神山先生は講演の中で様々なメッセージを私たちに伝えてくださいました。それらは、発達障害のある人の脳は「特異な脳」ではなく「得意な脳」であること、子どもの心を傷つけることなく導いて行ける支援者が必要なこと、指摘し注意する支援よりも自己認識を促す支援を、などといったものでした。

先生のお話はご自身の学びの工夫にはじまり、お子さんに対する支援、持続可能な世界の実現にまで至りました。当事者としての実体験を踏まえた胸に迫るような先生のお話に多くの参加者が感銘を受けたことがアンケート結果から分かりました。本学の学生・教職員、地域の関係者など206名が参加して盛会のうちに終わることができました。



神山忠主幹教諭による講演



講演の様子



会場の様子

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

インターネット(クレジットカード払い)による寄付金の受付を開始いたしました。

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

Campus Letter

キャンパスからの便り

後援会

令和2年度保護者説明会について

令和2年度の保護者説明会は以下の日程で開催の予定です。大学からの説明のほか、保護者同士の意見・情報交換の時間も設けています。たくさんの保護者のご参加をお待ちしております。

- 6月 6日(土) 広島(中国・四国)
- 6月13日(土) 熊本(熊本・長崎)
- 6月20日(土) 鹿児島支部総会(鹿児島)
- 6月27日(土) 大分(大分・宮崎)
- 7月 4日(土) 長崎(長崎・佐賀)

事前に対象地域にご案内を送付いたしますが、他地区へのご参加も可能です。

下記後援会事務局までご連絡をお願いいたします。



福岡教育大学後援会 事務局
TEL・FAX:0940-33-8070
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp

同窓会城山会

夏期研修会報告

今年の夏期研修会は、8月4日(日)13時より福岡リーセントホテルにおいて127名の会員が参加して開催されました。研修では、筑豊地区田川支会の道高修一幹事長から、新たに発足した「田川市若



手教員授業づくりセミナー」について、福岡地区宗像支会の高田英也幹事長からは名簿作成や小・中学校長会との連携など組織強化について報告があり、谷副会長からの助言がありました。講演では、筑紫野市教育長の上野二三夫氏から「教育の場から見た城山会への期待」という演題で貴重な示唆をいただきました。研修会終了後の懇親会では会員相互の親睦が図られ、同窓の絆を深める有意義な一日となりました。

福岡教育大学城山会 第18回新年の会のご案内

日時：令和2年2月 9日(日)11:00～
場所：ホテルクラウンパレス小倉
会費：6,000円 ※お申し込みは各支会よりお願いいたします。

福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL・FAX:0940-33-2211
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

トライアスロン愛好会清掃活動

福岡教育大学トライアスロン愛好会は、宗像市・福津市・岡垣町を中心とした競技環境のもと、日々トレーニングに励んでいます。

春からのシーズン期間に練習拠点を置き、海スイム練習等をさせて頂いている北斗の水くみ海浜公園において、砂の掻き出し作業や海岸ゴミ拾いなどの清掃活動を定期的に行ない、練習拠点の美化に取り組んでいます。

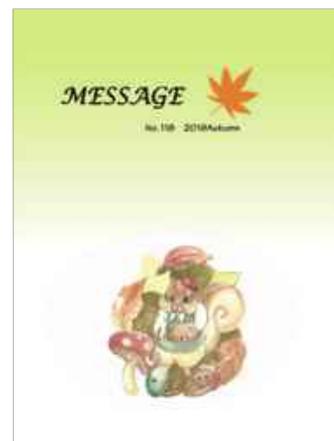
豊かな競技環境や、日々活動を支えて下さる方々への感謝の気持ちを胸に、これからもさらに努力を重ね、活動の幅を広げていきます。



健康科学センター

MESSAGE No.118 2019 秋号

今回の内容は、「ゆきといた生活」、「アフリカ・マウントケニアに登って」、「オランダのホームドクター・医療事情」、「その生きづらさはどこから?」、「友達が亡くなって想うこと」、「ぼちぼち、いきなさいね」、「毎日続けていくこと」、「スマホによる健康障害」など盛りだくさんです。表紙は本学学生(中等美術)の綾 千恵美さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>



どんなベストセラーよりも、
生徒の日記を読むのが
たのしい。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2014年度卒業生)



きょう蒔いた種は、
いつ花を咲かすだろう。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人
福岡教育大学
University of Teacher Education Fukuoka

(2016年度卒業生)

Joyama 通信 vol.46

福岡教育大学広報誌第46号 2019年11月20日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。